

# Tokyo Tobihino Rotary Club



会長 結城 祐純



幹事 谷 和彦

会長テーマ クラブを再加速する

2023-24 Weekly Report vol.36-33



世界に希望を生み出そう

2024年3月12日(火) 第1668回 移動例会 親睦旅行 於:大寺・増上寺・泉岳寺・うかい豆腐屋

今回の親睦旅行は親睦委員会、企画・制作:中澤 洋会員・脚本:会長 結城祐純会員で上演された。出発時から小雨が降り帰路は雨も強くなり肌寒い1日でしたが、内容は大変充実したものでした。中央道に乗り、親睦委員会委員長中澤会員の「おはようございます。雨になりましたがスケジュールに沿ってバスが向かいます。」と挨拶、続けて結城会長より「今日はあいにくの雨になりましたが、深大寺さんでは山主の張堂様、増上寺では法主小澤憲珠様に講話をお願いしておりますので、楽しみ。にしてください」と挨拶がありました。

最初に訪れたのは、都内の名刹「深大寺」です。境内近くでバスを降り、ご案内の僧侶がバスまで迎えに来ていただき、早速、江戸時代の火災から唯一免れた山門からご案内いただきました。1695年に建立の山門は茅葺で「浮岳山」の文字が書かれた歴史の重みを感じる額が掲げてあり、潜り抜け境内に入ると本堂が、有名な「なんじゃもんじゃの」木を挟み、左手に元三大師堂がそして右奥には茅葺のお庫裡が目に入り込んできました。雨ということもあり、訪れる方も少なく静寂としていい日にお参りできたと思いました。結城会長のお手配で、本堂に早速お通しいただき、本堂で深大寺の山主 張堂興昭様から、寺について、歴史から今日までを編集された映像を基に、時にはユーモアを交え丁寧なご説明いただきました。

深大寺は、奈良・天平時代に水の神である「深沙大王」をまつる寺として開かれた。これは寺を開いた僧の両親が、かつてこの神様に恋の仲立ちをして頂いたからなので、「深沙大王」は現在も多くの男女から縁結びの信仰を集めている。平安時代になると天台宗に改まり、元三大師像を奉安した。やがて源氏から信仰を集めるようになり関東一の密教寺院として隆盛を極めてゆく。徳川時代には五十石の朱印地を与えられ、多摩川流域に約四十の末寺を擁した。特に厄除けの「元三大師像」葉、江戸両国まで出開帳去れ、大師の縁日には人々が群れをなしていたほどで、こんにちもなお深大寺の信仰の中止になっている。釈迦如来像は平成29年に国宝指定され東日本最古の国宝物。本堂ご安置の宝冠阿彌陀如来像は、頭部に宝冠を戴くもので、主に天台密教に伝わる金剛界曼荼羅に描かれている

特徴的なお姿で、大変貴重な像である。坐像にして2メートルの元三大師像は僧形の古像では我が国最大の法量を誇る。元禄8年建立の山門は古刹の山門に相応しく、意匠的に優れた建築として知られる。毎年3月3・4のだるま市は日本の3大だるま市の一つで大変にぎわう。最近では地域の着物愛好者が和服でお詣りされその華やかさが話題になっている、に五月初旬には本堂左手の「なんじゃもんじゃ」の可憐な白い花がまるで雪が積もった様に咲く。風情豊かな環境は多くの俳人や歌人に愛され境内には多くの句碑・歌碑がある。(詳細は HPなどでご覧いただければと思います。)と、ご説明をいただき、国宝の阿彌陀釈迦如来様をお参り、本堂を出て元三大師様を参拝し境内を通りバスに、僧侶にバスまでお見送りを戴く。

車中で結城会長より「時間的に泉岳寺お参りは難しいとので参拝はあきらめ、食事をゆっくりすることにしましょう。」との提案があり、うかい豆腐屋に向かい昼食。

親睦委員長中澤会員の「雨の中お疲れ様でした。結城会長挨拶をお願いします。」の司会挨拶、結城会長「本日は都内の名刹を訪ねる旅、中央道が雨で大混雑、深大寺山主 張堂様の話も画像を用いてのご説明が詳しく時間が足りないくらいでした。名物の豆腐料理をゆっくり食べてここから徒歩で増上寺に向かいたいと思います。」と挨拶、続けて直前会長の守重会員のカンパイ音頭に唱和して懇親会になる。豆腐料理を堪能してアルコールも適度に回り、深大寺の様子やこれから訪れる増上寺の話題で宴は盛り上がり話が尽きませんでした。予定の増上寺に向かうため宴会をお開きした。

表に出ると雨でしたが結城会長の先導で寺に向かい受付後、僧侶のご案内で講話を戴く部屋のご案内いただきました。

しばらく部屋で待つと 法主 小澤憲珠様がお見えになり全員合掌でお迎えしました。講話は歴史から現在までをお話しいただきました。話の初めに我々が高幡不動の日野であることから私はお隣の八王子に住んでいますと緊張を和らげていただくような言葉をおっしゃられました。法然上人は今から八百五十年前承安五年比叡山黒谷の庵に決別して、浄土宗の開宗の声を上げられました。それは当時の碩学たちが思い至らなかったお念仏でした。時代に

即応した、万人が生まれつきのまま申すことのできるお念仏の教えです。増上寺は浄土宗の大本山で、関東での正統念仏道場として、明徳4年(1393年)に江戸貝塚(千代田区紀尾井町)に創建された。慶長3年(1598年)現在地に移転、江戸期には徳川将軍家の菩提寺として、また浄土宗の宗務を統縁所、関東十八檀林の筆頭として隆盛を極めた。最盛期の増上寺は、広大な寺有地に百二十の堂宇、百軒を超える学寮が葺(いらか=瓦ぶきの屋根)を並べ、三千名の僧侶が修学に励む大寺院だった。苦難の明治期を経て、繊細で伽藍の多くを焼失、昭和49年に大殿再建、徐々に復興を果たす。平成23年に法然上人八百年御忌を迎え、更に諸堂宇が整備され、宗教、文化活動の拠点として親しまれています。境内の三解脱門は元和8年に建立され、増上寺が江戸の初期に大造営された当時の面影を残す唯一の建造物で系統3年現在に移転した・三解脱門・三大蔵経・法然上人伝・花園天皇宸翰(しんかん)宸記目録上が国宝で都文化財は本尊阿弥陀如来像・木造四天王像・釈迦三尊像・経蔵他があり区指定文化財は五百羅漢図・法然上人行状絵他など多数あります。安国殿の裏には戦後増上寺にまとめられた徳川将軍家の墓所があります。天候が良ければ各所をご案内したいのですがあいにくの雨ですべてご案内できません。と講話を結ばれました。講話の後 結城会長が小澤法主様に「参拝記念にご同席いただきたく撮影したい」との依頼を快くお受けいただき全員で記念撮影。この後、本堂二階の阿弥陀様をお参し、

屋根瓦の普請にチタンの瓦を使用し重量を抑えているとの説明がありました。瓦見本も見学。その後、お堂の外に出て徳川将軍家の墓所をご案内いただき、二代将軍 秀忠公夫妻・六代将軍 家宣公夫妻・七代将軍 家継公・九代将軍 家重公・十二代将軍 家慶公・十四代将軍 家茂公 皇女 静寛院和宮・将軍個室等が埋葬されている墓所をお参りさせていただきました。説明の中で六代将軍 家宣公・静寛院和宮様の御宝塔は青銅製で、静寛院和宮様御宝塔には葵と皇室の菊のご紋が入っている。徳川将軍家の墓所は上野寛永寺にもあります。と説明いただきました。そしてバスで帰路に就きましたが、ご案内いただいた僧侶に発車するまでお見送り戴いた。春先の雨で肌寒い1日でしたが、結城会長のお力で、度々深大寺・増上寺とも普段お参りはしても、山主張堂様。法主小澤様にお会いすることはなく、まして講話を戴く機会はありません。結城会長に感謝です。大変有意義で貴重な機会を戴けた一日を送ることができました。ありがとうございました。

出席報告	総数	出席	MU前	MU後	欠席	出席率
第1668回	24	15	1	-	7	66.6
第1666回	24	24	0	0	0	100

**ニコニコBOX** 本日 0円 累計 626,721円  
 本年度目標額1,200,000円 達成率52.2%

※今週のメイクアップ 水野さん  
 ※先々週の後メイクアップ なし

